

フランスを中心とする在西欧図書館における日本関係資料をめぐる状況、
ならびにチューリッヒ大学図書館蔵〈川端康成書簡〉の紹介

渡部 麻実

一 はじめに

在西欧図書館における日本関係資料の把握と調査研究については、近世以前の研究領域において、より積極的に取り組まれてきた¹⁾。もともと、ヨーロッパに所在する図書館・研究機関等が収集する日本関係資料の多くを、古典籍と木版画が占めてきたことに鑑みれば自然な傾向と言えるだろう。研究資料の存在可能性に対する予期と期待値が高くなければ、渡欧踏査には至りにくい。だが、在外図書館の収集対象のほとんどは近世、少なくとも明治前期以前の資料であろうとのイメージの先行により、見逃され続ける資料があることは看過し
たくない。

西欧との人的交流をほとんど持たなかった近世以前とは異なり、近代は、作家個人が西欧を含む海外に広く
赴き、多様な交流を展開してきた²⁾。交流により人的ネットワークが形成される。つまり書簡や書物が往き来

する。原稿・草稿・蔵書の寄贈が行われる。滞在が長期に渡れば、帰国時に持ち帰れなかった手沢本を寄贈することも珍しくない。世界には、日本の近代作家たちの置き土産が埋蔵されている。問題はそれらが少なからず藁のなかの針めいて、見つかる保証のないことだ。有無も所在も価値も未詳の針を求めて海を越える人は珍しい。総じて、近現代文学研究（者）による西欧の日本関係資料所蔵機関へのアクティブなアプローチの動きは鈍くなりがちだ。また、こうした状況は研究者と在在資料に限定されるものでもない。日本国内には多様な文学館、資料館が存在し、文学者の個人名を冠する機関も多い。しかしそのような機関でさえ、在外資料に関する情報収集は意外と難しい。おそらくアクセスポイント、具体的な接点が少ないことが原因だろう。近現代文学研究と在在資料の距離や、国内外の資料専門家相互の距離が今よりも縮まれば、情報の穴が埋まり、知や展望をあらたに獲得することもできるようになるはずだ。

他方、西欧には日本学を専門的に学べる高等教育機関が複数存在するが、日本文学・文化について言えば、それを専攻する若い世代の多くは近現代に関心を向けている。研究資料に加え、研究成果の共有をより活発にするためにも、国内外の研究者と日本資料の専門家をめぐる交流の活性化が望まれる。さらに、文学の研究と教育が発展可能性をかけて真摯に向き合いつつあるデジタル・ヒューマニティーズの問題を考えるなら、その分野における議論が夙に身近なものとして存在してきた資料専門家たちと、文学研究者との国境を越えた交流はますます重要性を高めるだろう。大学・大学院における文学教育とDIPの結節点が、〈資料〉に求められる

ことは言うまでもない。研究のみならず、教育と文化振興の現代的な在り方をめぐり、図書館(員)・文学館(員)・資料館(員)と、研究(者)との交流や協働は不可欠になりつつある。

本稿では、在西欧日本関係資料の所蔵や利用をめぐる状況とともに、国内外の資料専門家間、資料専門家と研究者間の通路を確認し、共有したい。

二 パリを中心とする在西欧研究図書館と日本関係資料

稿者は、二〇二二年一〇月一日から二三年三月三二日までの半年間、パリ・シテ大学³に客員研究員として在籍する機会を得た。本節では、その折に実施した訪問調査の概要を報告する。本調査は、日本資料を扱う専門司書九名の協力を得て、以下に示す四カ国八館(国別、訪問順)を対象に行った。日本関係資料の体系的な収集と整理、公開を行っている西欧を代表する機関としては、左記の八館に加え、イギリスのケンブリッジ大学図書館やベルギーのルーヴァン大学東方図書館などが挙げられるだろう。これらの図書館やその所属先研究機関は、いずれも、西欧における日本研究の拠点的作用を担ってきた。

以下、日本関係資料の収集、整理・保管、公開を行う在西欧専門図書館について、所蔵資料の状況を中心に報告する。なお、調査時に投じた質問項目とそれに対する回答については本稿末尾【資料1・2】を参照され

たい。

(一) フランス

① BULAC (Bibliothèque universitaire des langues et civilisations) 大学間共同利用言語文化図書館

所在地…65rue des Grands Moulins, 75013 Paris, FRANCE

HP…<https://www.bulacr.fr/>

専門司書…古賀敦子 (Atsuko Koga-Venture) 氏

概要…INALCO (L'Institut national des langues et civilisations orientales 国立東洋言語文化研究学院) と同居し、LCAO (東アジア言語文化学部) を擁するパリ・シテ大学にも近いBULACは、人文科学に特化した学際的な調査研究図書館で、和古書のコレクションがよく知られている。高等教育、研究、文化機関の共同利用図書館としての位置づけを持つBULACのコレクションは非西洋地域全般にわたる。前身にあたるBIULO (大学間相互利用東洋語図書館)⁴の蔵書を核とし、ESEO (極東フランス語学校)、CRJ de EHESS (社会科学高等研究院日本研究センター)、LCAO (パリ・シテ大学東アジア言語文化学部)の寄託資料を所蔵するBULACの日本関係資料のコレクションは、設立の歴史と規模の両面においてフランス国立図書館に次ぐものとなっている。日本資料の主力は、国文学研究資料館が製作した蔵書目録『パリ東洋語図書館蔵日本書籍目録―一九一二年以前―』(二〇〇六) 所載の、木版や朝鮮古活字本を含む約

一七〇〇タイトルだが、文学・言語・歴史・哲学の各分野における教育・研究上の参考資料の収集を精力的に行っており、近現代領域の蔵書は増加傾向にある。アイヌならびに沖縄に関連する資料が多いのも特徴の一つで、その他、近年は日本の点字関係のコレクションを増やしつつある。前近代ではあるが、先の目録作成以降にあたる二〇一一年、Robert Bergèreの寄贈により、あらたに近世の図譜一七〇冊がコレクションに加えられた。

② Université Paris Cité, UFR LCAO-Bibliothèque パリ・シテ大学東アジア言語文化学部図書館

所在地…Aile C 5rue Thomas Mann, 75205 PARIS, FRANCE

HP…<https://u-paris.fr/leao/presentation-de-la-bibliotheque/>

専門司書…高井里恵子 (Rieko Kasai Degoutet) 氏

概要…パリシテ大学東アジア言語文化学部LCAO (Langues et Civilisations de l'Asie Orientale) の専門図書館として、同大学中央図書館とは別に設置されている。学部附属図書館という性格上、教学を支える資料の収集を主要な使命とし、原則的に希覯本の収集は行っていないが、コレクションのなかには大江健三郎旧蔵書『渡辺一夫著作集』、大久保乙彦旧蔵書一二三冊、日高六郎旧蔵書、フォンテーヌブロー滞在時の池澤夏樹旧蔵書、辻仁成著者献呈本、平中悠一著者献呈本といった作家・研究者の寄贈資料、署名本も見られる。なお、明治改元時点ですでに日本語科を設置していたことで知られる東洋言語専門学校の後身INAL

COとともに、LCAOは、フランスにおける日本語日本文化の高等教育と研究の中核を担う機関である。近接のBU LACと収書を分担し、それらの相互補完的な利用を促すことで、フランスにおける日本語日本文学領域の研究教育を支える屋台骨の一つとなっている。

③ Bibliothèque du MNAAG (Musée national des arts asiatiques-Guimet) ギメ東洋美術館図書館

所在地…6place d'Iéna, 75116 PARIS, FRANCE

HP…<https://www.guimet.fr/francais/visites/bibliotheque/>

専門司書…ノエル咲 (Saki Noel) 氏

概要…ギメ東洋美術館は、世界的な宗教美術館の設立を標榜したりヨンの実業家エミール・ギメ（一八三六～一九一八年）の個人コレクションを母体とする。フランスにおける美術館再編計画にともないルーブル美術館の東洋美術コレクションが移管され、ギメ美術館のコレクションはヨーロッパ最大となった。ギメ美術館図書館は、美術館内に位置し、研究図書館でありながら一般利用者にも開かれている。本図書館が、東洋美術と美術史に関する専門的な文献をきわめて多く所蔵しているのは無論だが、日本近代研究の観点からは、エミール・ギメ関係の資料に注目したい。ギメは、宗教美術館の開設とともに、一八七九年三月の日付を持つ「仏国里昂府新設学校広告」（ギメ図書館蔵、【図版1】）⁵に明らかのように、リヨンに日仏教育研究機関としての学校を新設する計画を推進していた。日本語を用い、「日本ノ諸君ニ広告ス」と記された同広告

の内容を見る限り、それは「東洋語学校」⁶としてイメージするものとは少々異なるようだ。ギメが計画した学校は、日仏教育研究機関と東洋語学校、さらに日本人留学生向けの補習校を兼ねる形態だったと見るのが妥当かもしれない。さきの広告とともに保管された資料（図版2）は、「pou」「pou」「+10 jin pou」というように、フランス語話者を対象とし日本語の実際に近い発音ができるよう配慮した仮名と数字の一覧表である。平仮名には筆順が記されており、書くことにも配慮されている。ギメ図書館所蔵資料のうち明治以降の文献にフォーカスすると、一八七〇年代半ば、明治初年代の『小学読本』各巻、「小学習字帖」（図版3）各種等、初等教育用の教科書が顕著に多い。なかには、文部省『小学化学』一〜三（ロスコウ撰、市川盛三郎訳、保田東潜校、一八七四年）のような、フランス人の日本語学習者向けとは言えない教科書も見られる。これらは、ギメが「仏国里昂府新設学校広告」に、学校新設の動機として記した「予一般ノ教育ニ従事セシヨリ尔来日本留学生ノ上ニ於テ遺憾少ナカラズ今其一ニヲ挙レハ日本人纔カニ六歳ヨリ十四歳以内ノ童子ヲ航セシムル者アリ其童子唯欧州ノ学ニ従事スルニ因リ国語歴史及ビ風習ヲ忘レ帰国シテ後同国人ノ交際ニ苦シムニ至ル」に鑑みても、新設学校のために集められた資料と考えられる。その他、中等教育用の教科書としては、よく知られる源歌子（下田歌子）『和文教科書』全一〇巻（東京中央堂、一八八五〜八九年）が注目される⁷。一八七九年、リヨンにギメ宗教美術館を設立するに先立ち、明治初年代に来日し、二カ月余りを日本で過ごした経験を持つギメの残した資料類は、明治黎明期における日仏文化交流を知ろう

所在地…52rue du Cardinal Lemoine, 75005 PARIS, FRANCE

HP…<https://www.college-de-france.fr/fr/bibliotheque-archives/bibliotheque-etudes-japonaises>

専門司書…馬場郁 (Kaoru Baba) 氏

概要…国立特別高等教育機関 (grands établissements) の一ツコレージュ・ド・フランスの日本研究図書館は、日本語学、仏教、宗教史関係を中心に、豊富な研究資料を所蔵する。日本近代に関係する資料としては、アグノエルとクレットマンのファンドに注目したい。言語学や文化人類学を専門とするアグノエル (Charles Haguenauer, 1896-1976) は、I H E J (日本学高等研究院) を創設し初代所長を務めた人物で、日本での在外研究期間中 (一九二四～三二年) にあたる一九三〇年に沖繩でフィールドワークを実施している。折口信夫、柳田國男の影響を強く受けるとともに、沖繩文化研究の父と称される伊波普猷と親交を結んだアグノエルは、沖繩関係の言語・民族に関する多量のノートを遺した。日本文学領域では、森鷗外や志賀直哉の翻訳、『源氏物語』の解説と抄訳などを手がけている。日本研究図書館には、その旧蔵書約七五〇〇冊と日本滞在時に撮影した写真を含む旧蔵品、スケッチを含む肉筆資料群が寄贈されており、日本研究者の在外旧蔵品・旧蔵書コレクションとして稀有な規模を誇っている。旧蔵資料中、沖繩関係のノートについてはコレージュ・ド・フランスが出版しており、研究に一定の蓄積がある。これ以外に、カートン三〇箱以上にも及ぶ旧蔵資料があり、そのうちの二二箱分がすでに目録化されている。目録を見る限り、二二箱分の

資料の中心は『法寶義林』研究に関連する資料で、全体に、日本を中心とする東アジアの思想とそれを紐解くのに有用な言語関係の資料が目立つ。他方、『落窪物語』についての日本語資料、アグノエルの著作『Origines de la civilisation japonaise』（一九五六）や『Morphologie du japonais moderne』I～III（一九五一～五三）執筆準備のためのタイプ原稿、武士の起源、鎌倉中期の武士・竹崎季長、鎌倉時代の美術・文学に見られる戦士等についてのノート、日本の歴史に関する手稿、『帝國主義』とタイトルのあるメモ類の束のほか、『Petite histoire du style littéraire japonais』と題されたノートや、日中文学についてのメモなども見出せる。以上の二二箱分以外のカートンは、アグノエルの没後に引き取られたもので、旧蔵書も多く含まれ、書籍は内容に応じて日本研究図書館に収蔵された。同カートン中には、二〇〇〇年以降に刊行された資料など、アグノエルの旧蔵資料に属さないものも一部含まれる沖繩関係の資料を除き未詳部分も多く、潜在する可能性を含め興味深い。

クレットマンのファンドは、クレットマン (Louis Kreimann, 1851-1914) の日本滞在中の記録資料 (日記、写真、書簡等) ならびに収集資料 (絵巻、地図、錦絵等) をおもな内容とする。ルイ・クレットマンの日本滞在中の資料群を発見した彼の孫ピエールが整理を試み、のちにコレージュ・ド・フランス日本研究図書館に寄託 (二〇二二～二七年) した。なおクレットマンは理工学校校卒のフランス人技師で、同校長も務めた人物だが、一八七六年二月七日から七八年五月二〇日にかけては、明治政府の要請によって派遣された軍

事顧問団（第二次）に加わり、工兵大尉の身分で日本に滞在し陸軍士官学校の教官を務めていた。クレットマンのコレクションは、おもに六種類―A 二冊のアルバムに収められた四七八枚の写真（うち三九一枚が日本で撮影）／B 徳川御三卿中の田安家旧蔵『献英楼画叢』四冊／C 絵巻／D 版画／E 地図／F 陸軍士官学校の講座資料／G 講座のための準備資料／H 日記・書簡に分類される。また、資料の発見者にあたる孫のピエールが調査過程で収集した資料もコレクションの一角に加えられている。その目録は、コレージュ・ド・フランスのデジタル画像オンラインカタログ *Salamandre* で確認できる。同サイトでは、クレットマンが執筆した資料を日本語に訳したうえで陸軍士官学校のテキストとすべくガリ版刷りされた一八種（城、要塞・軍路、化学技術、地理、代数、測量など）の講本（一八七六年頃成立）ほか、一部資料の画像公開も行っている。これらの資料のうち、日記や写真については調査研究を経て書籍化されている¹⁰。他方、講座関連のメモ・ノート類など、詳細調査未了の資料群もある。明治草創期の士官学校のあり方への新たなアプローチを拓くクレットマンの資料群からは、文学も含めた近代日本研究に有用な知見が得られることが期待できる。

さらに、コレージュ・ド・フランスの初代日本講座教授ベルナル・フランク (Bernard Frank 1927-1996) の講義資料が、コレージュ・ド・フランスの本部に保管されており、*Salamandre* の目録を見ることができる。その他、和古書を中心とする約二七〇冊の旧蔵書、書簡、ノートを含む *Hippolyte de Castillon de Saint-Victor* (1830-1898) の旧蔵資料があり、デジタル化が進められている。園芸文化を中心に

日本への高い関心を示した人物とあって、カステイオンのコレクションからは、明治初期のパリにおける日本人との交友もうかがえるという。近代日本に関する貴重な歴史資料として注目したい。

⑤ service des manuscrits orientaux, Département des Manuscrits, Bibliothèque nationale de France - site Richelieu フランス国立図書館 (B n F) リシュリユー館、東洋手稿資料部門

所在地…58, rue de Richelieu 75002 Paris, FRANCE

HP…<https://www.dnrf.fr/richelieu>

専門司書…Laurent Hercher 氏、東洋手稿部門長

概要…リシュリユーは王室文庫時代から続くフランス国立図書館 (B n F) の旧館にあたり、現在 B n F の拠点は、一九九四年に新設されたフランソワ・ミッテラン館に置かれている。リシュリユー館は長期改修工事を経て、二〇二二年九月に再開した。おもに芸術と文化遺産を扱うこの館の所蔵の中心は、原稿・手稿、版画・写真のほか、美術、舞台、地図、古銭等の特別コレクションに置かれている¹⁾。敷地には、研究図書館のほか、年齢制限なく無料で利用できる有名な楕円形ドーム状の閲覧室 (La salle Ovale 【図版4】) やミュージアムがある。なお B n F では、日・中・韓の資料を一括管理してきた歴史があり、古い所蔵カタログでは日本関連のコレクションは中国コレクションに包括されている。日本関係資料としては、日本文庫 (le fonds japonais) と、蒐書家として知られるオーギュスト・ルスエフ (Alexandre-Auguste Lesouëf, 1829-

1906) のコレクション約一万八千点からなるスミス・ルスエフ・コレクションの日本部門 (Le fonds Smith-Lesouéfi japonais) が挙げられる。ルスエフ・コレクションは、その多くをアジアの写本をはじめとする書物、版画、骨董が占め、日本関係資料としては卷子本を含む書物や美術品九〇〇点以上がある。ルスエフ自身に日本訪問歴はなく、そのコレクションの背景には、幕末から明治初期の著名な日本学者でフランス国立東洋

【図版 4】 フランス国立図書館リシユリユー館閲覧室 (La salle Ovale)



語学校の初代教授としても知られるレオン・ド・ロニー (Léon-Louis-Lucien Prunel de Rosny, 1837-1914) との親交、レオンの影響と助力があった。

B n F に日本語の本が初めて収蔵されたのは一七四二年のことという。一八五八年に締結された日仏修好通商条約の締結以前において、そのコレクシヨンはおもに出島に滞在したオランダ人からもたらされた資料によって構成された。なかでも、オランダ商館長だったイサーク・ティチング (Isaac Titsingh, 1745-1812) が収集した約一五〇冊の写本や、シーボルト旧蔵書から購入された三四作品八四束はコレクシヨンの中核をなすものであった。その後寄贈と購入により徐々に所蔵数が増加し、一八八九年頃に日本コレクシヨンが設置された。非印刷資料である奈良絵本等の多色木版画入り本や木版画を中心にコレクシヨンは拡大を遂げたが、二〇一〇年代以降は印刷資料についても積極的に集められているという。その中心はジャポネズリならびにジャポニズムを牽引したゴンクール兄弟 (Edmond de Goncourt, 1822-96, Jules Alfred Huot de Goncourt, 1830-70) やアンリ・リヴィエール (Henri Riviere, 1864-1951) が代表する時代のもので、近代以降の資料も漸増している。

(二) スイス

- ⑥ Universität Zürich, Universitätsbibliothek, Geschichte, Kultur und Theologie チューリッヒ大学 (歴史・文化・神学部門) 図書館

所在地…Zürichberg strasse 4, CH-8032 Zürich, SCHWEIZ

H P…:https://www.ub.uzh.ch

専門司書…神谷信武 (Dr.Nobutake Kamiya) 氏

概要…チューリッヒ大学図書館は、同大学の研究・教育上のニーズに合わせるべく、中央図書館 (Zentralbibliothek Zürich) と連携して学術資料の提供を行っており、日本研究領域の図書館は、スイス国内において日本関連の文献をもっとも多く所蔵している。日本近代文学に関連する特殊なコレクションとしては、元チューリッヒ大学教授コルネリウス・アウエハント (Cornelius Ouwehand, 1920-1996) の旧蔵資料がある。アウエハントは、オランダのライデン大学で文化人類学を学ぶとともに、インドネシア公務員訓練課程を修了し、一九四五年よりオランダ領東インドで行政職に従事した。四九年一二月末にインドネシアが独立するとオランダに帰国し、ライデン国立民俗学博物館学芸員職を経て日本に留学している。柳田國男に師事し鯨絵の研究を行ったアウエハントの名著『鯨絵 民俗的想像力の世界』は、岩波文庫で読むことができる。六〇年代における彼の主要な調査・研究は、沖縄の神信仰をはじめとする民俗・宗教を対象とするもので、六八年にチューリッヒ大学に着任、八六年に退官するまで日本講座を牽引した。日本近代文学に関連するアウエハントのおもな仕事に、『雪国』『千羽鶴』『山の音』『湖』『眠れる森の美女』ほか、数多くの川端康成作品のオランダ語訳がある。そして川端とアウエハントの往復書簡四通が、近年チューリッヒ大学

図書館で確認された。

この書簡については次節で言及したい。なお、アウエハント旧蔵資料の多くは、チューリッヒ大学からライデン大学に移され、現在は同大学図書館が管理している。ただし、アウエハントがインドネシアで拾得し持ち帰ったと考えられる資料には、聯合軍が日本兵に投降を呼びかける文書、いわゆる伝單が多く存在し、それらはチューリッヒ大学図書館に所蔵されている。「一濠洲軍曹が日兵に仮纏帯所で水をのませて居るところ」「オーストラリア收容所に今や身心ともに健康を取戻した日軍将兵」といったキャプションの写真を掲げ、国際法規にのっとった医療と給養を約束しつつ「今後の流血は無駄」と呼びかけるもの等、一部資料は同図書館によりデジタル公開されている。

(三) ドイツ

⑦ Ostasienabteilung der Staatsbibliothek zu Berlin - Preussischer Kulturbesitz
国立図書館東アジア部

所在地… Potsdamer Strasse 33,10785 Berlin, DEUTSCHLAND

HP… <https://staatsbibliothek-berlin.de/>

専門司書…ウルスラ・フラック (Dr.Ursula Flache) 氏、東アジア部日本課課長／C. デュンケル (Christian Dunkel) 氏、同主任研究員

概要：プロイセン文化財団が運営するベルリン国立図書館は、二六〇年以上の歴史を誇る研究図書館である。バッハやメンデルスゾーン一族の手稿を含むコレクション、レツシングやゲーテ、トーマス・マンの書簡や手稿のコレクションはとくに有名だろう。一九二二年に設立された東アジア部（EAD）は、ドイツ語圏における日本関係資料所蔵館として最大、東アジアコレクションとしてはヨーロッパ最大の規模を誇る。特記すべきは、資料循環制度BL（Blauer Leihverkehr）の基幹として図書館間相互貸借を前提にドイツ語圏における日本関係リソースの集積的役割を担っている点だろう。EADの日本コレクションの歴史は、一八六〇年以降、プロイセン使節団の遠征に伴い Churfürstliche Bibliothek zu Cöln an der Spree が木版画や写本を購入したことに発するという。それらは中国資料とともに手稿部門、次いで東洋手稿部門に収蔵されていたが、一九二二年のEAD設立にともない移管された。そのコレクションは一九四三年時点で、中国資料が写本版本あわせて約七万点、日本資料は約五千点に及んだ。だが、大戦に際し疎開図書となったそれらのうち、三分の二に相当する資料群が失われた。

日本資料については、未公開資料展覧会（一九八一年）の開催にあたり作成された和本の総カタログ Kraft, Eva (Hg.) . *Japanische Handschriften und traditionelle Drucke aus der Zeit vor 1868 im Besitz der Stiftung Preussischer Kulturbesitz Berlin. Staatsbibliothek und Staatliche Museen: Kunstbibliothek mit Lipperheidischer Kostümbibliothek, Museum für Ostasiatische Kunst, Museum für Völkerkunde.*

Wiesbaden: Steiner, 1982 (Verzeichnis der orientalischen Handschriften in Deutschland; XXVIII)により、全貌が明らかになった。当時のコレクションはオンラインジャーナル (Kraft, Eva. The Japanese collection in the Staatsbibliothek Preussischer Kulturbesitz. In: Japan Forum, 31991, Nr. 2, S. 211-220) で一覽できる。日本文学に関連する資料としては、現在、三〇四〇〇〇タイトルのを所蔵している。また、日本近代と関わりを持つ旧蔵書に、大塚金之助 (一八九二〜一九七七)、越智治雄 (一九二九〜八三)、Wolfgram Naumann (一九三二〜二〇二二)、Jürgen Berndt (一九三三〜九三) のコレクションがある。日本資料収集の中核をなす機関だけに、ドイツ各地の大学、文学館・記念館等を経てここに寄贈または売却される資料も多く、旧蔵書を含む特殊資料のコレクションは今後も拡大することが予想される。

(四) オランダ

⑧ Universiteit Leiden Asian Library ライデン大学アジア図書館

所在地…Witte Singel 27, 2300 RA Leiden, NEDERLAND

HP…<https://www.bibliotheek.universiteitleiden.nl/>

専門司書…Nadia M. Kreeft-Mishkovskiy 氏、日本韓国研究司書・キュレーター

概要…シーボルトハウスも立地するライデンはオランダにおける日本研究の中心地で、オランダ最古の大学ライデン大学は、西洋で最初に日本学科を設置した大学でもある。ライデン大学図書館の三階に位置するラ

イデン大学アジア図書館は、二〇一七年に新設された。コレクションの中心は世界最大規模を誇るインドネシアコレクションだが、中国、日本、韓国関係の資料も多い。日本に関連するものとしては、出島で収集されオランダにもたらされた資料が中心をなしており、なかでもシーボルトの膨大なコレクションはその目玉と言える。近年、ライデン大学のコレクション中に其扇（楠本たき、一八〇七～六九年）のシーボルト宛書簡が発見されて話題を呼んだ。其扇のシーボルト宛書簡は全文がデジタル化され、世界中からアクセス可能になっている。近代以降に焦点をあてるなら、チューリッヒ大学図書館から移管されたコルネリウス・アウエハントの旧蔵資料に注目したい。一七個のファイルで構成されるCornelius Ouwehand archive（アウエハント・アーカイブ、KITLV）は、日付のあるものに限れば一九三三年から五〇年にかけて作成されたタイプライターないし手書きの文書である。ただしその大半は、一九四〇年代のインドネシア行政や現地の民族、宗教等に関するオランダ語の資料で、一部にインドネシア語と英語の資料が含まれる。アウエハントがインドネシアに滞在した時期は日本軍がインドネシアに侵攻した時期と重なっており、インドネシア行政に関する仕事からキャリアをスタートしたアウエハントが、日本を対象とする民俗学的研究に着手するようになった背景の一端を、そこに見出すことができるかもしれない。稿者の調査範囲は二〇二三年二月時点でカタログ化され閲覧可能な状態にあった資料に限られるが、そのなかに日本への言及を含むものはほとんどない。A4の用紙の両面を用いタイプで作成された英語資料が例外的に日本に関連するまとまった言及と

なっているが、冒頭見出しに《WHAT THE JAPANESE DID TO ISLAM IN JAVA》とあり、次いで《This article gives a survey of Japanese Islam policy and Islam propoganda in Java during the occupation period. It has been built up from Japanese authentic documents : items in Japanese controlled Malay newspapers, papers seized in Japanese offices》と記されているように、占領期ジャワにおける日本のイスラム政策とイスラム・プロバガンダについての調査資料である。これ以外には、枠外に「防諜ニ注意セヨ」と赤字で刷り込まれた「陸軍」用箋〔No.212-04.05.〕を用い、その両面にオランダ語で書き込まれた資料があり、宗主国オランダから派遣されたアウエハントないしその周辺人物と、侵攻中の大日本帝国陸軍関係者の間に、陸軍用箋の授受が生起するような関係が構築されていた可能性を想像させる。現時点で、アウエハント・アーカイブ中に、川端への言及、日本近代文学関係のノート、原稿は見つかっていないが、アウエハントの旧蔵資料は従来ほとんど参照されてこなかったものだけに、日本関係資料の潜在可能性に期待したい。また、同アジア図書館の蔵書中には、柳田國男の署名本も含まれる。

以上、八館の概要を示した。今回調査に至れなかった機関についても、可能な限り報告の機会を持ちたい。なお、インタビューに加え、実際に各図書館を利用してとりわけ印象深かったのは、手稿等の特殊なコレクションも含め研究資料が、きわめて開かれた状態にあることだ。研究利用に際しては著作権以外のしほりが

なく、いずれの資料も、所蔵情報を明記すれば自由に活用できる。B n Fをはじめとする図書館・研究機関では、持参したスマートフォン等での資料の撮影（無料）が広く許可され、規模の大きな図書館では、持ち込み機器で撮影するための環境とマンユアルの整備も進んでいる。こうした環境において研究者は、自身のPCに必要な研究資料のアーカイブを構築することができる。

他方で、国立をはじめ高い公共性を有することと、図書館であることが、こうした状況を実現しやすくしている側面があることにも、目を向ける必要があるだろう。一九九四年に更新されたユネスコ公共図書館宣言(IFLA/UNESCO Public Library Manifesto)は、情報の累積と提供こそが社会と人類の発展の要であると説き、知識と情報への自由で制限のないアクセスの重要性や、情報提供窓口としての図書館の役割を体系的に示した。情報技術の進歩と新型コロナウイルスのパンデミックがもたらしたバーチャルアクセスの浸透に伴い、二〇二二年に宣言がアップデートされても、その姿勢は引き継がれている。ひるがえって文学館では、作家の人生と作品、土地と文学との結びつき、創作の現場、創造の秘密等々を、文学館というアクチュアルな空間においていかに示すか、展示という観客への語りかけが期待されている。図書館が、知と情報の記憶装置としての側面を顕著に有するのに対し、文学館は、作家と作品の記録・再生の場としての側面をより強固に持っていると言ふことができようか。使命や立場に異なるのであれば、資料をめぐる認識や、提供可能な情報に差異が生じるのは自然である。同様のことは、研究的参照を念頭に資料整備を試み、資料を対象とする調査研究

により、テキストの再評価、あるいは研究方法の更新をはかり、その延長上に作家と作品の継承、資料の価値向上、文芸文化の活性化等を目指す研究（者）との間にも言える。だがシナジーは、二つ以上の異なる要素が働く場でしか生じない。異なる性格を持ちつつ、資料を遺すことと活かすことへの関心や文学・文学館・文学資料が置かれている現状の更新必要性を共有できる資料専門家たちが交流する場こそ、目の前にある資料に新たな意味と価値をもたらし、文学（資料）と社会との再接続をかなえる根拠地ではないだろうか。

その他の点では、在西欧の大学等研究機関図書館におけるサブジェクトライブラリアン（SL）のあり方、SLと学生や研究者との距離の近さ、教育、研究、サービス提供の結節点を図書館が担い、SLと研究者がともに、教育研究の主軸を担っていることも印象深く感じられた。

さらに、eajrs（日本資料専門家欧州協会）をはじめとする研究活動と情報共有の場が機能し、機関や国・地域を越えた日本研究の進展と環境整備を下支えしていることも興味深い。在外の日本資料専門家と、より積極的な交流を持ち、eajrs等に関心を向けることは、日本近現代文学研究の展開にも資するところが大きいだろう。

ここで紹介する川端康成とコルネリウス・アウエハントの往復書簡四通は、いずれもチューリッヒ大学図書館が所蔵する。アウエハントは、前述のとおり日本での留学を経て一九六八年にチューリッヒ大学に着任、八六年に同大学を退官するまで日本講座を牽引したスイスを代表する日本学者である。また *Sneeuwland. De Tijdstream. Lochem. 1957* や *Duizend kraanvogels. De Tijdstream. Lochem. 1960* をはじめ、ノーベル文学賞受賞以前より川端康成のオランダ語訳を多く手掛けた彼は、オランダ語圏に川端文学を導入した人物とも言えよう。

以下、四通の書簡を成立順（推定）に示す。翻刻に際し、挿入（加筆）は〔 〕、削除は「」、判読不能は【】で示した。

①川端康成書簡、コルネリウス・アウエハント宛、一九六〇年（推定）九月二六日【図版5】
便箋二枚の表面に筆書き。封筒欠。便箋は和紙、左下に朱色の彼岸花の絵入り。

拝復、お手紙をまことにありがたく拝見いたしました。お返事が非常におくれましたのは、お手紙が日本へ着きました時、私はちやうどUSAからBRASSILへ四月ほど旅行に出てをりまして、お手紙が日本からアメリカに転送され、さらにブラジルへ転送され、日本のブラジル大使館から東京の外務省へもどり、

近ごろ私の家へとどいたからです。千羽鶴を貴国語に御訳し下さるのはありがたいことです。翻訳していただく権利は、〔著作権はいつさい〕出版社にはなく私にありますので、この〔私の〕手紙を承諾書とお受け取り下さつて結構です。出版社に御交渉下さるには及びません。ドイツ語訳のほかにも英語訳が〔「イギ」アメリカとイギリスで〕出版さ〔二〕れてをりますので御参考になるのですしたらお送りいたします。日本語の原文は充分御覧下さつたことと思ひますが念のためにお送りいたします。飛行便ですので小さいポケット版にいたしました。

表紙の字と私の写真とは近日飛行便でお送りいたします。出版社によりしくお伝へ下さいませ。日本もこのところ秋日和となりました。

たいへん立派な日本語のお手紙をいただいてうれしく存じました。 九月二十六日 川端康成

C アウエハンド様

② コルネリウス・アウエハント書簡、川端康成宛、一九六〇年十一月（推定） 一一日

便箋三枚の表面に筆書き（妻静子代筆）。封筒欠。便箋は縦書き用、赤罫。

拝啓、先日は御親切なお返事、誠にありがたく拝見致しました。出版社も私を待ちかねておりましたので、千羽鶴訳本出版のこの様な快諾のお便りに、私達は心から喜び安堵している次第でございます。ところで、此の訳本出版の権利をお譲り頂くための経済的な条件につき、出版者側では貴方からの御要

請額等をお伺いしたく存じております。今一度その件につき御返事下さいませ。

表紙の装釘は以前より決定しておりますが、翻訳も第三章までは幾度かの添削の後、既に印刷所にまわっており、今月末には出版できる見込みでございます。今は只 貴方のお写真と中表紙の為の字をお待ちするのみとなりました。

お贈り下さった三冊の文庫本恐縮しつゝ、もありがたく頂戴いたしました。尚英訳書は千羽鶴、雪国共に私卓上に備えております故お送り頂くには及びません。

空澄み深みゆく秋にて、貴方の御健康と御活躍のますく盛んであります様に。

拙筆あしからず御判読下さいませ。

しぐれ月十一日／C. アウエハンド／妻静子代筆

川端康成様

③川端康成書簡、コルネリウス・アウエハンド宛、一九六〇年十一月（推定）一九日【図版6】
便箋一枚の表面に筆書き。封筒欠。便箋は和紙、朱粹。

拝復 写真と千羽づるの字をお送りいたします。よろしく願ひいたします

御本の出来るのが非常に楽しみです 権利ハオランダの常識の慣例にしたがつて結構です

C.Ouwehand様 十九日 川端康成

④川端康成書簡、コルネリウス・アウエハント宛、一九六八年（推定）二月二〇日、ロンドン【図版7】

便箋四枚の表面に筆書き。封筒欠。便箋に「G H/AIR MAIL」「GROSVENOR HOUSE/P.O.BOX No.961/PARK LANE/LONDON W.1.」「Telephone : 01-499 6363/Telegrams : Grovhows London W1/Telex : 24871」と印刷。

拝復 このたびの私の受賞に御心厚い御祝ひをたまはりまして温い幸ひをいただきました深く御礼申し上げます

十二月十日の授賞式その他の行事をとどこほりなく役づとめいたしました後ヨオロッパに休養旅行をいたしてをります 出発前またストックホルムでの多忙にまぎれいろいろ失礼のありましたことまた御礼も甚だ延引して申し上げますこと何卒おゆるし下さいませ 匆々

十二月二十日ロンドンにて／川端康成

なほ帰国は来春の予定ですので年末年始の御あいさつもここに申上げさせていただきます

科後、お手紙でまことよりかたく拝見いたしました。
 お返事、非常にお礼しましたのは、お手紙が日本
 へ着きました時、お礼をいさよとUSJからBRAL
 へ四月は旅行に出てきりまして、お手紙が日本から
 アメリカに轉送され、さらにはブラジルへ轉送され、日本
 のブラジル大使館から東京の外務省へもどり、近
 り私の衣いとお礼をいさよ。お返事と書面語の
 御禮しやうとするはありかたが、お返事して
 いたる後、お返事は出版社には、お返事して
 いたる後、お返事は出版社には、お返事して
 いたる後、お返事は出版社には、お返事して

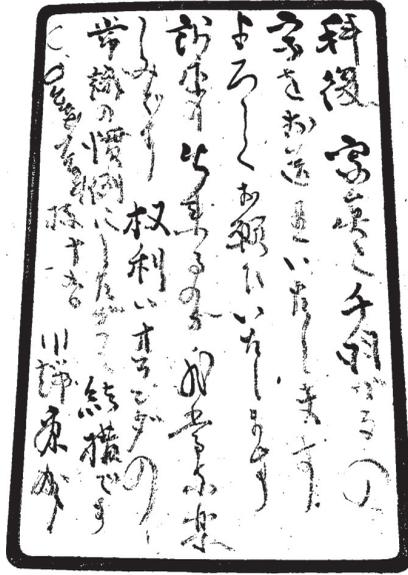


に御文法下りには及ばず、ドイツ語譯の原書に
 英語譯を出版せられたる、御容考、定まり
 したるを送りつけました。日本語の原文は、御覽
 いただき、お礼をいさよ、お返事、お返事、お返事、
 飛折便の手紙、お返事、お返事、お返事、
 長紙の字、お返事、お返事、お返事、
 ます。出版社、お返事、お返事、お返事、
 のより、お返事、お返事、お返事、
 在の、お返事、お返事、お返事、
 け、お返事、お返事、お返事、
 じアウエハド様



館蔵)

【図版6】川端康成書簡(チューリッヒ大学図書



【図版7】川端康成書簡(チューリッヒ大学図書館蔵)

GREYSTONER HOUSE
PARK LANE
LONDON W1K 1AF
Telephone: 01-262 5324, 5111
Telex: 3505 GREN GB

GREYSTONER HOUSE
PARK LANE
LONDON W1K 1AF
Telephone: 01-262 5324, 5111
Telex: 3505 GREN GB

拜啓 上のたびの
 受賞は御心厚い
 御祝ひをたまはり
 まして溢い辛ひを
 つたなきこまりた深く
 御礼申上申す
 十月十日の授賞
 式その他の行事と
 どもは是より後
 とめいりまして後
 ヨオコソバに休養旅
 行をいよいよさりま
 ず 出発前よ夫
 ストックホルム下の
 多忙にまぎれ

いら夫礼のありきりた
 こともまた御礼も甚
 かな延引く申上申
 ますこと何卒おや
 ることこませぬ
 十二月平日ロンドンにて
 川端康成
 大坂帰国は来春の
 予定とするので年末
 年始の御あはさつも
 三月中上げさせて
 いただきます

いずれも執筆年の記載がないが、サンパウロで開催された国際ペンクラブ大会へのゲスト出演の時期や、アウエハントによる川端『千羽鶴』の最初のオランダ語訳が出版された時期に鑑みて、最初の三通は一九六〇年のものと判断できる。自作の翻訳をめぐる作家の態度をレリーフするような内容が興味深い。『伊豆の踊子』『雪国』がサイデンステッカーによって英訳され、すでに国際的な作家として認知されつつあった川端は、『千羽鶴』が新たな言語に翻訳される機会を喜び、多忙なスケジュールのなか全面的ともいえる協力の姿勢を見せている。オランダ語訳に際し、既存の英訳とドイツ語訳の参照を婉曲に勧めているとも受け取れそうな文面からは、多言語への多数の翻訳出版、そして翻訳の質が、作家の対外的評価を決するようになった時代に対する洞察がうかがえる。

四通目は、ノーベル文学賞受賞を祝う書簡に対する川端の返信で、一九六八年のものと特定できる。一九六八年には『眠れる美女』のオランダ語訳 *De schone slaapsters*. Van Genneep, Amsterdam, 1968 が、やはりアウエハントの翻訳で上梓されており、六七年二月一六日付の川端、三島由紀夫宛書簡^{1,2}に「Strauss 氏に私も近く会はねばなりません、もてなしの法を思ひつかなくて少し困つてをります。「古都」のドイツ訳が出たり、「眠れる美女」のオランダ訳が出る事になったり、このころはヨオロツパ訳が私の場合は先になったやうです」と、そのオランダ訳への言及が認められる。同書簡が、自作の翻訳をめぐり、ストラウスに「会はねばなりません」と、義務感や困惑をにおわせているのも面白い。日本近現代文学の翻訳にいち早く乗り出し

たアメリカの大手出版社クノップ（Knopf）の編集長ストラウスといえ、ドナルド・キーンが自伝¹³のなかで複数の印象的なエピソードを伝えている。

ストラウスは、愛すべき人物ではなかった。彼はいかにも尊大に構えていて、「翻訳者など掃いて捨てるほどいる」といったようなことを平気で言う人間だった。（略）数々の欠点にもかかわらず、ストラウスは現代日本文学に関わりのある人間すべてから感謝されている人物だった。

キーンは右のように述べることで、日本文学翻訳事業におけるストラウスの役割の大きさを確認し、彼の人格上の難点とともに、一九五〇年代以降の日本文学ブームの立役者としての偉大な功績を記録した。また、五七年にニューヨークを訪れた三島由紀夫が、事前に英訳を手に取り準備を整えることで最低限の敬意を払うことさえしなかったらしいニューヨーク・タイムズの記者のインタビュを受けたのは、キーンによる英訳を出版していたストラウスのはからいによるという。通訳を務めたキーンは、同書で以下のように記している。

インタビュの後、記者が自分のことを何一つ知らないことがわかった三島は、私にこう尋ねたものだった。ニューヨークで有名になるには、どうすればいいのかな、と。

時間とともに空間も超える文学というテーマは、世界を知った近代において普遍化し、海外が近づいた戦後において、より身近になったものの一つだろう。近代化において西洋に学ばざるを得なかった日本文学は、つねに輸入超過状態にあった。戦後、その輸出入の不均衡を差し戻し、三島由紀夫とともに、日本のコンテンツボラ

リー文学の市場を世界に開いた川端康成の、翻訳をめぐる態度を如実に伝える資料として、さきのアウエハントとの往復書簡を位置づけることができる。

四 おわりに

以上、フランス、ドイツ、スイス、オランダの四カ国に所在する八つの図書館に関し、手稿や旧蔵書等の特別資料に焦点をあてつつ日本関係の所蔵資料の概要と研究利用のあり方について共有を試みた。

研究資料の価値を定量的に把握するのは難しい。それは、閲覧・引用などの利用回数、インパクト、相対的な影響力によって総合的に捉えることができるものだろう。そうした要素に直截的に関わるものに、アクセスしやすさやユーザビリティがある。固有資料が利用者を排除せず、所在と利用方法に関する情報が発見しやすい場所に置かれているか、利用方法は分かりやすいか、資料に対する物理的距離は近いかといった問題が、デジタル化の度合いと無関係には検討できなくなつて、すでに久しい。コロナ禍の移動制限と施設使用制限は、デジタル化とインターネット公開の動きをさらに加速させた。他方で、著作権の遵守と、遺族をはじめとする関係者への配慮が不可欠な近現代文学資料については、デジタル化と公開の流れに乗りにくい。加えて、資料のデジタル化と公開に投入できるマンパワーの不足は、ほとんどあらゆる現場で深刻な課題となつている。加

速する変化の流れを、個別の条件によらず、資料の価値と可能性を高め、文化の継承発展を支える推進剤にするためにも、情報を共有したり相補したりすることは、いまとこれからの考察に欠くべからざるものと思われる。

ところで、日本近現代文学と翻訳をめぐる川端康成や三島由紀夫、あるいは村上春樹を中心に、早くから研究が深められてきた。しかし、翻訳の現場を再構成し得るほどに膨大な資料が蓄積され、研究利用も可能な英訳の場合を除き^{1,4}、翻訳的営為を闡明する記録資料は少ない。原文と翻訳のあり方に関心を向ける研究も、一部の作家を除き、対象を英訳に局限してきた。コレージュ・ド・フランスのアグノエルコレクションや、ライデン大学のアウエハントコレクション等々、作家や翻訳者の旧蔵資料群のなかから、近現代文学の研究資料が新たに発掘されることを期待したい。

【資料 1】

【1】コレクションの概要について ENG:An overview of your library collection / FRA:Un aperçu de votre collection bibliothèque

※概数の場合は「約_点」とご回答ください。exact number or approximate number / nombre exact ou nombre environ

(1-1) 日本関係の資料の総数を教えてください。ENG:How many total documents(or materials) related to Japan do you have? / FRA :Quel est le nombre total de documents relatifs au Japon ?

(1-2) そのうち、書籍は何点ですか。ENG:How many of (1) are books? / FRA :Combien d'entre (1) sont des livres ?

(1-3) (2)のうち、日本文学関係の資料の点数が分かれば教えてください。ENG :How many of (2) are related to Japanese literature? / FRA :Combien d'entre (2) sont liés à la littérature japonaise ?

(1-4) (2)のうち、明治以降の日本文学関係の資料の点数が分かれば教えてください。ENG:How many of (2) are related to Japanese literature since Meiji Era(1868-)? / FRA :Combien d'entre (2) sont relatifs à la littérature japonaise depuis l'ère Meiji (1868) ?

(1-5) 書籍以外の資料にはどのようなものがありますか。概要とおもな資料について教えてください。ENG:Do you have the non-book collections? What is its overview and what are the main ones? / FRA :Vous avez les collections non-livres ? Quel est son aperçu et quels sont les principaux ?

【2】肉筆資料について ENG :The manuscripts in your collection / FRA :Les manuscrits dans votre collection

(2-1) 原稿・草稿・書簡といった肉筆資料があれば、総数と概要、目録の有無について教えてください。ENG:Do you have handwritten materials, for example manuscripts, drafts, and letters etc.? What is the overview? How many do you have? Is there a catalog of your collections of manuscripts? / FRA :Vous avez des documents manuscrits, par exemple des manuscrits, des brouillons et des lettres, etc. ? Quel est son aperçu ? Combien en avez-vous ? Il y a de catalogue de vos collections de manuscrits ?

(2-2) 公開されているデジタル画像があれば、その内容について教えてください。ENG:Do you have handwritten manuscripts available in digital image on the website? What is its overview? / FRA :Vous avez des documents manuscrits disponibles sous forme numérique ? Quel est son aperçu ?

【3】作家等の旧蔵書について ENG :The writers' library collections(=the books which writers owned during their lifetime)/FRA :Les collections bibliothèques d'écrivains (=les livres que les écrivains ont possédés au cours de leur vie)

(3-1) コレクションの中に、作家・研究者・芸術家・文化人等々が生前所有していた書籍はありますか。ENG:Do you have a writer's, researcher's, artist's, etc. library collection? / FRA :Vous avez des collections bibliothèques d'écrivain, de chercheur, d'artiste, etc.?

(3-2) ある場合は、成り立ち(寄贈・購入/経緯等)、内容、また目録の有無について教えてください。ENG:What is its origin (gift or purchase/by whom/when? etc.) and its content? Is there a catalog of the collections? / FRA :Quelle est son origine (don ou achat/par qui ? /quand ? etc.) et son contenu ? Il y a de catalogue des collections ?

(3-3) 総数について教えてください。ENG :How many do you have? What is the total number? / FRA :Quel est le nombre total ?

(3-4) 公開されているデジタル画像があれば、その内容について教えてください。ENG:Do you have a writer's library collection available in digital form on the website? / FRA :Vous avez de collection bibliothèque disponible sous forme numérique ? Quel est son aperçu ?

【4】目録と資料の公開、ならびに閲覧等申請について ENG :The catalog, the publication of documents, and the procedure for requesting access / FRA :Le catalogue, le publication des documents, et le procédure de demande d'accès

(4-1) 所蔵資料のカタログや蔵書目録の有無とデジタル化の状況について教えてください。ENG:Do you have a digital library catalog? Can we search on the Internet? / FRA :Vous avez de catalogue ou énumération numériques ? On peut faire des recherches sur Internet ?

(4-2) 蔵書目録の公開状況について教えてください。ENG:Who can access to the catalog? Is it available to the public? / FRA :Qui a accès au catalogue ? Il est accessible au public ?

(4-3) 特別資料(肉筆資料や旧蔵書など)の閲覧は可能ですか。ENG:Is it possible to access to special materials (manuscripts, writers' libraries, etc.) in original form? / FRA :On a accès aux documents spéciaux (manuscrits, bibliothèques d'écrivains, etc.) dans forme originale ?

(4-4) 特別資料の複写(撮影)は可能ですか。ENG:Is it possible to photocopy (or photograph) them? / FRA :On peut les photocopier (ou photographier) ?

(4-5) 等別資料の閲覧や複写(撮影)が可能な場合は、その資格や申請方法について教えてください。ENG:Can anyone photocopy (or photograph) them? Or to do so, special procedure and qualification are necessary? / FRA :Tout le monde peut les photocopier (ou photographier) ? Ou pour le faire, le procédure et qualification particulière sont nécessaires ?

【資料2】

2022年10月～2023年3月調査

		③BILAC	②LCAO
1-1	約175,000点・30,000冊未満 毎年6988冊以上増	約16,000点・1000冊未満 1000冊以上増	約16,000点・1000冊未満 1000冊以上増
1-2	〃	〃	〃
1-2	約15,000点	4,930点・全体の4割程度	1,755点
1-4	文学限定での資料数は不明。明治以降の日本関係資料としては、約34,000点	1968年以降の修士論文(博士論文は中央図書館蔵)	2018年以降の一部修士論文(DUNAKS*で全文公開)
1-5	版画・木版画・折本等 1868年以降の資料に「江戸風俗面紙(錦絵・折本)」(1869)・安達吟光「昔戦争(錦絵・折本)」(1980)など		
2-1	「旧蔵東公立小中学校生徒習字」ほか小・学生徒習字、旧所蔵資料カタログ(Carrière, Auguste, 1873 /向, 1863-1872)など ※目録14-1を参照		
2-2	catalogue- https://catalogue.bulac.fr/ 上のBULACデジタルインテグリティ Bina を選択		
3-1	imlolo所属教員の旧蔵書		
3-2	寄贈	1)大江健二郎旧蔵書(渡辺一夫著作集I/2)久保乙彦旧蔵書(23冊) 3)日高六郎旧蔵書(4冊) 澤夏樹旧蔵書(7)ナグエ・アワモ・蒲在時の蔵書 5)江仁成・著者館呈本 6)平中悠一著者館呈本 寄贈 木下詳	
3-3	木下詳		
3-4	1冊子・国文学研究資料館蔵・丸東洋語図書館蔵日本書籍目録-1912年以前-12006 カード・上記の冊子目録記載内容を含む ・オンライン・catalogue de la BULAC/SIDOC*	・catalogue de la Bibliothèque LCAO* ※旧所蔵者情報や敬呈署名の有無等の注記は件わない	
4-1	いずれも公開オンラインアクセスは三つ目オンラインカタログが該当	オンラインアクセス	
4-2	可	可	
4-3	可	可	
4-4	可	可	
4-5	利用者登録(無料)後、閉架資料についてはwebページから申請。著作権法の範囲内であれば出版物等への複製掲載等も可。	開架資料は資格を問わず利用可能。閉架資料LCAO所属学生・教員・それらに準ずる学生や研究者が申請に基づいて利用。著作権法の範囲内であれば出版物等への複製掲載等も可。	
		③Quinet	
1-1	約30,000冊・約2000巻次刊行物のほかの連続性中の日本語巻次刊行物は約140タイトル ギョウ画書籍蔵書(約10万冊)の3割程度にあたる(日本語資料以外も含む)	代表的なレビューブックは以下の7つ 1)Fronts Bernard Frank**欄675分 2)Fronts Charles Haguenauer**欄1675分 3)Fronts Jolion des Longenist**欄1075分 4)Fronts Castillon**256冊、肉筆資料約30点 5)Fronts Kreitmann**欄475分 6)Fronts Misais**7023点 7)Collection Oudard-Bernard Frankが収集したお札1000枚超。	
1-2	〃	約48,000冊/小.63,000冊(巻次刊行物を含む)	
1-3	1-2の3割程度 毎年約200の小冊 うち、江戸後期～明治期の和古書(版本)は約1,400冊/小.5,000冊	約9,000冊/小	
		②Collège de France	

1-4	詳細未詳 ツツカゴの中心は近世初期の仏教関連書、近世後期～明治期の絵入本	約500冊/小冊
1-5	巻子本の一部、折本状の浮世絵・地図・占写真 ※原則として書物の形をしていないものは図書館ではなく、キタ美術館に収蔵	日記、書籍、写真、繪巻、縮絵、おれなど 2-1も参照
2-1	(写本)・手帳本約100点のほか、キタの書籍など	1) Fonds Bernard Frank: 義経関係の資料ほとんどが肉筆・文書・Salamancaで検索可能 2) Fonds Charles Hagenauer: 手稿・ノート類、目録(一般大公開)があり約9分の2は登録済・沖縄関係の手帳・ノートについては書籍化*され、べてる。 3) Fonds Jolon des Longrais: 未整理 4) Fonds Castillon: 書籍を含む肉筆資料約30点 5) Fonds Kreimann: 日本滞在中の記録。一部書籍化済み*、目録Salamancaで検索
2-2	キタ美術館としては、写真を対象としたデジタル画像がCatalogues numériques des collectionsで公開	Salamancaで*
3-1	1) Famie, Etienne Guinet (ユニール・ギタ)* 2) 公泉雄作 3) Paul, Akeke, Lando, Seneier (Uニドク・ク・カサテアエ) 4) Henri Riviere (フツリ) / ジョアン・マル 5) Claude Bugeane, Maître (クニエ・ド・ク・ヌーブル) 6) Vera Linhartová (ウニエ・リウ・ハルトヴァー)の旧蔵書を含む旧蔵資料	1) Fonds Bernard Frank: 旧蔵書1,800冊/小冊、今後増加予定。 2) Fonds Charles Hagenauer: 旧蔵書約 500冊。 3) Fonds Jolon des Longrais: 旧蔵書。同書籍蔵書中に統合され、冊数は未詳。所蔵印あり。 4) Fonds Castillon: 旧蔵書。19世紀末に収集した日本の植物に関する和言書約250冊。 5) Fonds Kreimann: 旧蔵書。冊数未詳。陸軍士官学校用カバ版翻写本18件。 6) Fonds Mitsur: 7025点の資料中の多くが19世紀の文書。
3-2	寄贈・購入	1) -3) 寄贈、目録は1-1参照 4) 購入(90年代前半)、目録は4-1参照 5) 寄託、目録は4-1参照 6) 寄贈、学習院大学史学科の協力により画像データと共に目録が作成されたが、一般には未公開。
3-3	未詳	主なコレクションについては3-1を参照
3-4	CCBMN*に一部掲載	Salamancaで*
4-1	-CCBMN -SUDOC -書名目録*	- omnia* - SUDOC - Salamancaでデジタル画像を有する資料の場合) - Fonds Charles Hagenauerについては、目録Inventaire Charles Hagenauer(Archives Hermin, web未公開)がある。 ※Collection Ouhadaについては、Ouhadaサーチページがある
4-2	CCBMN, SUDOCはオンラインアクセス ※旧蔵書はオンラインカタログに掲載されているが、旧蔵書以外の区別はつかない、肉筆資料は未掲載。	omnia, SUDOC, Salamancaでオンラインアクセス ※書籍48,000冊/小冊は全てomniaで検索可。また一部(約11,000冊/小冊)はSUDOCでも検索できる。
4-3	可	研究目的であれば特別資料の閲覧も基本的に可能
4-4	撮影可	研究目的であれば制限なく可 商業目的の場合は利用費用を請求する場合がある
4-5	研究目的かつ著作権法の範囲内であれば自由に利用可能。	著作権法の範囲内であれば出版物への複製掲載等可能。所蔵状況を明記。

⑤BnF-Richelieu		⑥Universität Zürich	
1-1	写本部門(department des Manuscrits)の日本コレクションとしては、印刷物(書籍)15,600冊以上、定期刊行物約500タイトル、その他ヨーロッパの日本学者の著作、論文等約20巻、ただしコレクションの中核は多色木板画を中心とする絵入本、写本。	約145,000点	
1-2	1-1-1 参照		
1-3	1-1-1 参照	約20,000点+逐次刊行物	
1-4	印刷資料(活版・オフセット)以外は、19世紀以前	約6,000点	
1-5	版画、木版画、洋装、古地図、音楽など	約6,000点	
2-1	1-1	レコード、DVD、CD等	
2-1	1-1	川端康成-C.フレンチ*往復書簡4通	
2-2	写本(ほとんどもGallicaにて公開) 写本(ほとんどをGallicaにて公開) 浮世絵や写本を中心とする日本コレクションを限定的に検索・閲覧する場合は、フランス国立図書館(フランス国立中央図書館)でGallicaに連携してアクセスし、または		
3-1	(Richelieuも含め)BnF全体としては、日本に関する深いコレクションに、Lesouaff, Marguerite(1829-1906)、Duret, Théodore(1838-1927)、Coisse, Louis(1846-1921)、Marteau, Georges Edgard(1851-1916)、株田正(1853-1906)、Troquais, Emmanuel(1855-1918)、Rivière, Henri(1864-1951)、等がある)	C.フレンチ旧蔵資料、津浦関係の資料が中心、多くはライオン大学図書館に移管。その他、名誉教授の旧蔵資料。一般蔵書中に配架、蔵書印を有する書もある。	
3-2	寄贈・寄託・購入	寄贈	
3-3	—	約9800点	
3-4	Gallica	*swisscovery*	
4-1	書籍カタログとしては ・Catalogue général des livres imprimés, tome VII, 1985 ・Japonais du Catalogue général des livres imprimés, 2000 逐次刊行物カタログとしては ・dans le Catalogue collectif des périodiques japonais conservés dans les bibliothèques de Paris, 1982. ルネエマ・コレクションについては ・Catalogue des livres et manuscrits japonais collections par A. Lesouaff, Leiden, E. J. Brill, 1887 ・Catalogue des kake-monos et des makri-monos chinois et japonais collections par A. Lesouaff, Leiden, E. J. Brill, 1892 ※以上はすべて冊子体、webカタログ(Catalogue général*やGallica)でも一定の検索が可能。 ※Gallicaで閲覧可能な、日本関係の書籍(写本)・木板画の複製カタログは以下の3つ 1)Catalogue des manuscrits et xylographes japonais, cotes I-5350, 5600-5607 Oreste Fourczechitch s.l.n.d. 2)Catalogue des manuscrits et xylographes japonais, Nouvelles acquisitions 1986- cotes 5329-5346, 5607-5629 Keiko Kosugi, Veronique Béanger. 3)Manuscrits, xylographes, estampages : les collections orientales du Département des manuscrits : guide / sous la dir. d'Annie Berthier	*swisscovery* UB und ZB Zürich*	
4-2	Catalogue général et Gallicaはオーネンツァグゼス	オーネンツァグゼス	
4-3	可	撮影可	
4-4	可	複製可	
4-5	著作権法の範囲内で可	著作権法の範囲内であれば自由利用可能(図書館申請)	

⑦ Saatsbibliothek zu Berlin	⑧ Universitätsbibliothek Läden
1-1 230,000点以上	67613点(逐次刊行物を含む) 日本関係の手稿、写本、版本等特別資料の代表的コレクションとして「Serrurier Collection」がある。Serrurierが自録したコレクションで、Jan Cook, Blomhoff, Jan Hendrik Donker, Curtius, Philipp Franz von Sieboldの収集資料が含まれる*。オンラインカタログ掲載資料としては約1,160点。
1-2 約190,000タイトル,約230,000冊＋逐次刊行物約8,900タイトル	65900点(書籍、逐次刊行物) 63776点
1-3 約30,000～40,000タイトル	未詳
1-4 未詳、なお和書全体のうち古典籍は約340タイトル,約3400冊で、多く江代以降のもの。	補誌、地図、書簡、写真、複製資料、印刷に関連するアイテム
1-5 総書、地図等、約40タイトルに加え、帯末明を中心とする和本の外装約1,000枚	シーボルト書簡12通、J.ボフマン書簡84通など
2-1 約90タイトル(写本を含む)、原稿類として、ドイツの神学者、言語学者Johann Severin Vaerterの Japanische Grammatik (1815-25)、その他、本末コレクション、使節団Friedrich Albrecht Eulenburgの書簡(1869)がある。	シーボルト、其真景書簡(1冊) 主要コレクションは1巻を参照 それ以外の資料に、Louis Alphonse van Caestelem*等、退任教授の旧蔵書がある。ただし一般蔵書中に配架 その他、柳田國男の署名本を所蔵
2-2 2-1の他、『主国合籍記』(江戸中期)等	
3-1 1)大塚文庫 2)帯末コレクション(使節団資料) 3)酒井一・奇蹟(1931-2011)旧蔵資料 4)趣音拾遺(1929-1958)旧蔵資料 5)Nelly / Wolfran Neumann(邦語、日本古代史、1922-2000/日本文学、1931-2021)旧蔵資料 6)Jürgen Berndt (日本文学、1933-1995)旧蔵資料 7)Rudolf Hartmann (日本史、1937-2020)旧蔵資料	シーボルトコレクションは、クリアム二世が購入し、国に寄贈されたもの。国立博物館・美術館やライプツィヒ大学図書館に分散された。図書館には主に、日蘭辞典、日本文学、魚類・甲殻類・水鳥の図版と地図が所蔵されている。
3-2 1)大塚文庫:書籍和書はCrossAsiaで洋書、逐次刊行物はStadtkatで検索(Osaka*)。2)コレクション:使節団(写本、版本、地図等)、コレクションオンラインで検索と画像へのアクセス可能。3)酒井一・奇蹟:CrossAsiaで検索可能。4)趣音拾遺:ペリウ・森鷗外記念館より寄贈。書籍目録未作成。逐次刊行物は一部目録化済。5)Naumann:奇蹟、CrossAsiaで検索(Signatur 35 Z2*)。6)Berndt:オンライン大学より寄贈。目録未作成。7)Rudolf Hartmann:奇蹟、Stadtkat classicで検索(Provenance: Bibliothek Rudolf Hartmann)。	未詳
3-3 1)大塚文庫:和書1,600タイトル以上、洋書約140タイトル、雑誌約150種 2)コレクション:使節団(約100タイトル) 3)酒井一・奇蹟6854冊、雑誌300冊以上 4)趣音拾遺:未詳 5)Naumann:図書、雑誌1784件 6)Berndt:未詳、蔵書、講演原稿、書簡等 7)Rudolf Hartmann:図書203件	
3-4 — 4-1 ・CrossAsia* ・CrossAsasearch* ・Stah Digitalisieresk ・Stadtkat classic / neuen Stadtkat (Beta)* ・Karin, Eva. The Japanese collection in the Staatsbibliothek Preussischer Kulturbesitz in Berlin*	+L. Karlen`s s CATALOGUE OF PRE-MEIJI JAPANESE BOOKS AND MAPS (1996)* +L. Serrurier`s BIBLIOTHEQUE JAPONAISE (1896)* +Kooz Kuiper`s THE SERRURIER COLLECTION(2016)* ライプツィヒ大学図書館オンライン目録*
4-2 上記すべてWeb閲覧可。ただし5番目はアクセスを要す。	上記1・2番目は冊子。3・4番目はオンラインアクセス

4-3 可 4-4 スキャン・コピー可 4-5 著作権法の範囲内であれば自由 4-6 著作権法の範囲内であれば自由	可 撮影可 著作権法の範囲内であれば自由
<p>4-3 可</p> <p>4-4 スキャン・コピー可 資料の状態によってはデジタル画像の作成を依頼(Imaging and Duplication Service)が館内のコピー専門業者(bibliography)で実行する必要がある。</p> <p>4-5 著作権法の範囲内であれば自由可能(公刊物を一部除く)。</p> <p>4-6 著作権法の範囲内であれば自由可能(公刊物を一部除く)。</p> <p>* SIDOC(https://www.sudoc.abes.fr/) Le catalogue du Système Universitaire de Documentationのデータベースにおける高等教育・研究機関の図書類資料館が作成する共同目録データベース。</p> <p>* DUMAS(https://damms.ccsd.cnrs.fr/) Dépôt Universitaire de Mémoires Après Soutenanceのデータベース高等教育機関からの寄託で構成される修士論文データベースのポータルサイト。</p> <p>* Catalogue de la Bibliothèque LCAO(https://biblio.leao-n-paris.fr/) Bibliothèque LCAOの検索ツール</p> <p>* CCBN(https://auroh.culture.fr/) Catalogue Collectif des Bibliothèques des Musées Nationauxの国立美術館博物館ネットワークの共同オンラインカタログ。</p> <p>* ゼム図書館名目録 長谷川・シゲル正子「アンリ・フレイヴェルとその江戸期版本コレクション」(日仏図書館情報学会編『書物史研究の日仏交流』榎村厚, 2021)に「数年来より保管庫の整理された約1,000冊の和漢書がある。」</p> <p>* ゼム旧蔵書 Bernard Frank (1927-1996) コレージュ・ド・フランスの日本文明講座の初代教授(1979年-1996年)宗教学が専門だが日本文学領域の代表的な業績に『今昔物語集』の翻訳がある。</p> <p>* Charles Haguenauer(1896-1976) JHEI(パリ)大学・日本学高等研究所の創設者で初代所長。同研究所は1973よりコレージュ・ド・フランスに所属。言語学・日本・朝鮮文化の研究が専門。日本に留学経験があり日本中世史・仏教史の比較宗教学・古文書学が専門。日仏会報・フランス国立日本研究所所長(1939-1946)。</p> <p>* Hippolyte de Castillon de Saint-Victor(1830-1898) ポルトーのブドウ園主で仏蘭主に産物に関する和古書を多数収集。</p> <p>* Louis Kreitmann(1851-1914) ルイ・クレマンソン。理工科学校(Ecole polytechnique)卒のフランス人技師のち同校学長に就任。明治政府の要請で派遣された軍事情報団(第二次)の一人。工兵大尉の身分で来日。</p> <p>* Mitsui (三井) 甲州三井家の旧蔵資料。1669-1941年に及ぶ文書が多く19世紀を中心としたアーカイブ。</p> <p>* Charles Haguenauerの津纏ノート Haguenauer Charles et al. <i>Offprint 1930 notes ethnographiques de Charles Haguenauer</i>. Paris: Collège de France Institut des hautes études japonaises dfr. de Becard. 2010. Print.</p> <p>* Kreitmann日記と学資資料の書籍化 日記は松嶋館子蔵『クレマンソン日記』(東洋文庫, 2019)として写真の一部はユウ・イヴ¹、松嶋館子蔵『フランス士官が見た近代日本のあけぼの』(RBD企画, 2005)として出版。日</p> <p>* Salmandre(https://salmandre.college-de-france.fr/) コレージュ・ド・フランスのデジタルコレクションのオンラインカタログ。</p> <p>* omnia(https://omnia.college-de-france.fr/) コレージュ・ド・フランスの図書館とアーカイブ共通の検索ツール。</p> <p>* Outaデータベース(http://outa.crea.fr/) CNRSの研究ユニットCRAOC(東アジア文明研究所)が運営するお札の画像データベース la collection de Bernard Frank(フランクが収集したお札コレクション)を核とする。</p> <p>* Gallica(https://gallica.bnf.fr/) BNFが提供するオンラインデジタルライブラリ。BNFに2600の提携機関のデジタルコレクションの検索と本文へのアクセスができる。1,000万件の文書をオンライン公開している。そ</p>	<p>可 撮影可 著作権法の範囲内であれば自由</p>

- * **フランス国立図書館 フランス・日本ポータルサイト** (<http://expositions.jnfr.fr/france-japon/>)
日仏文化協力90周年を記念して2014年12月に開設
- * **Catalogue général**(<https://catalogue.jnfr.fr/index.do>)
BnF/OPAC
- * **CJアエハント**(**Cornelius Onuchand,1920-1996**)
ライオン出身の民俗学者ユネエウリツヒテ大学教授、日本文学関係の仕事として川端康成作品のオランダ語訳がある。
- * **swisscovery**(<https://swisscovery.sisp.ch/>)
スイス国内の大学・研究機関の図書館約490館の蔵書が検索できるプラットフォーム。
- * **swisscovery UB und ZB Zurich**(<https://zb.swisscovery.sisp.ch/>)
チューリッヒ大学図書館の検索ツール
- * **大塚文庫**
ベルン経済学者で職人の大塚金之助 (1892-1977) の旧蔵資料コレクション。経済学、社会科学関連の専門書が中心だが、プロレタリア短歌関連の資料も複数含まれる。
- * **CrossAsia**(<https://crossasia.stahika.de/>)
ベルリン図書館東アジア部門 (EAD) のOPACに相当。
- * **CrossAsiaSearch**(<https://crossasia.org/ressourcen/crossasia-suche/>)
EAD所蔵資料を含め、アジア関係の人文科学と社会科学の学術情報も検索可能プラットフォームを要するが統合テキストトリボットリ (TTR) 全文にアクセスできるCrossAsia Fulltext
- * **Stahli Digitalisierte Sammlungen**(<https://digital.staatsbibliothek-berlin.de/>)
ベルリン図書館デジタルコレクション
- * **Stahliak classic**(<https://hsbshg.gov.de/>) / **neuen Stahliak (Beta)**(<https://stahliak.de/>)
ベルリン図書館OPACとして従来メインで使用されてきたもの/新しいVOPAC。書籍のほか、雑誌記事やデータベースも検索できる。
- * **Kraft, Eva**. The Japanese collection in the „Staatsbibliothek Preussischer Kulturbesitz in Berlin.“
オンラインジャーナルJapan Forum, 3.1991, Nr. 2, S. 211-220掲載のカタログデータベースに属す古典籍をほぼ網羅する約840タイトル約3400冊を収録した和書の総合目録。
- * **Jan Cock Blomhoff** (1770-1853), **Jan Hendrik Donner**, **Currius** (1813-1879), **Philipp Franz von Siebold** (1796-1866) **所蔵資料**
近世期の版本と写本を中心とするコレクションで、鎖国時代に長崎出船から持ち帰られたものが中心だが、でもゾーホルトコレクションは膨大。
- * **Louis Alphonse van Gasteren** (1922-2016)
オランダの映画監督、ドキュメンタリーを多く手掛け、日本関係の作品に、19世紀の日本におけるオランダ人技師の役割に焦点をあてた [In een Japanese stroomversnelling(2002)] があ
- * **H. Kerlen's CATALOGUE OF PRE-MEIJI JAPANESE BOOKS AND MAPS** (1996)
HKERLEN, [CATALOGUE OF PRE-MEIJI JAPANESE BOOKS AND MAPS IN PUBLIC COLLECTIONS IN THE NETHERLANDS. H.カーレンが作成した。1868年以前のライオン大学
- * **L. Serrurier's BIBLIOTHEQUE JAPONAISE** (1890)
D.L.SERRURIER [BIBLIOTHEQUE JAPONAISE CATALOGUE RAISONNE DES LIVRES ET DES MANUSCRITS JAPONAISES ENRESISTRES A LA BIBLIOTHEQUE DE L.]
- * **Koon Kuiper's THE SERRURIER COLLECTION**(2016)(<https://digitalcollections.universiteitleiden.nl/view/Item/1918690>)
D.Koon Kuiper [THE SERRURIER COLLECTION: Introduction and catalogue.] East Asian Library, Leiden University Library, Leiden. セルリエコレクションのオンライン目録リスト。
- * **ライオン大学図書館オンライン目録**(https://catalogue.leidenuniv.nl/primo-explorer/seq?vid=IBL_V1&lang=en_US&sortby=rank)
ライオン大学図書館のOPAC(<https://www.library.universiteitleiden.nl/> → special collections → "special collections" → "collections")

【注】

1 古典籍については、日本資料委員会・国文学研究資料館「在外日本古典籍所蔵機関ディレクター」の公開と拡充をはじめ、在外日本資料の調査研究の環境整備が顕著に進んでいる。また、高木元「江戸読本の往方―巴里に眠る読本たち―」（『読本研究新集』二〇一四年六月）など、在仏の和本に関するまとまった調査研究も行われている。

2 近代文化人のフランス体験の全体像の把握にきわめて有用な一次資料集としては、よく知られるように和田博文監修『ライブラリー・日本人のフランス体験』全二巻（柏書房、二〇〇九～二〇一一年）がある。

3 二〇一九年、パリ第五大学と第七大学（デイドロ大学）が合併しパリ大学が設立され、二〇二二年三月、名称変更によりパリ・シテ大学となった。

4 Bibliothèque interuniversitaire des langues orientales。一六六九年にコルベールの主導で創設されたÉcole des jeunes de langues（青年言語学校）を前身として、一七九五年に設立されたÉcole spéciale des Langues orientales（東洋語専門学校、現INALCO）の図書館。BIULOの蔵書は一〇〇以上の言語の書籍五五万冊と逐次刊行物九六〇〇タイトルに及んだ。そのうちの約一三万点が、一四世紀から一九世紀までの稀覯書・貴重資料で、日本の木版画も含まれる。

5 同広告中に、「日本文学支那学ヲ教授スベキ人ヲ聘シ日本学ヲ修メ兼テ歐州ノ諸学ヲ研究セシムル（略）一

校ヲ里昂府ニ設立セントシ日本兼支那学教師二名其一ハ日本文部省ニテ保証ヲ得タル人其一ハ日本昌平大
学校ノ教官タリシ人並ニ訳者数名ヲ招聘シ其編制大率整フヲ以テ今日本ノ諸君ニ広告ス」とある。
一八七九（明治一二）年のリヨンで、日本人留學生を広く受け入れ彼らの帰国後の活躍を支えるべく、学
校新設の準備がきわめて具体的に進められていたことが分かる。本広告については、岡村嘉子「エミール・
ギメのリヨン東洋語学校設立とその動機」（『総合社会科学研究』二〇二三年三月）が詳細な報告を行って
いる。

6
たとえば尾木圭子、フランシス・マクワン『日本の開国 エミール・ギメ あるフランス人の見た明治』（創
元社、一九九六年）にも「ギメのもう一つの重要な計画は東洋語学校の創設であった」とある。

7
より時代の下った一九〇〇年代に刊行された教科書『国語読本 尋常小学校用』巻五（坪内雄三著、文部
省検定済、東京富山房蔵版、一九〇一年、訂正四版）には、ページにより、カタカナまたはローマ字でふ
りがなを付す多量の書き込みが施されているが、そこに見られるローマ字は、資料（『図版2』）の仏式と
は異なる。「を wo」[上品 dyo hin]「鳥類 tyo rui」と振られていることから、原則として、田中館愛橘が
一八八〇年代半ばに提唱し、その後日本式と名付けられたつづり方を採用していると考えてよいだろう。
さきの資料（『図版2』）同様、英語話者が日本語に近い発音をするために有効なヘボン式を、一貫して使
用しない姿勢が興味深い。同書の「第十六 京都」は、総ルビとなるようルビのないすべての漢字に手書

きで書き入れが施されている。「にしぢん織は、甚だ美しき織物にて、其の名、外国までも聞こえたり」とある件は、ギメによる広告中の一文「我里昂府ト日本トハ生糸商法ニ於テ大関係ヲ有セリ」を想起させる。尾木圭子ほか『日本の開国』（前掲）に「ギメは旅行中多くの書籍を収集し、日本からは1000冊の和漢の書籍を持ち帰った」とある。

9 *Éditées et commentées par Patrick Beillevaire, Okinawa 1930 : Notes ethnographiques de Charles Haguenauer.* Paris : Collège de France, Institut des hautes études japonaises, 2010.

10 関連する出版物に、コレージュ・ド・フランス、C.N.R.S. 監修、ニコラ・フィエヴェ、松崎碩子編『フランス士官が見た近代日本のあけぼの』（アイアールデー企画、二〇〇五）の Transcription de Pierre Kreitmann, revue et annotée par Kaoru Baba, Francine Héral, Sekiko Matsuzaki-Petitmengin, Elizabeth Weinberg de Touchet, *Deux ans au Japon (1876-1878) : Journal et correspondance de Louis Kreitmann, officier du génie.* Collège de France, Institut des hautes études japonaises, Paris, 2015. 松崎碩子訳『トマン日記（東洋文庫）』（平凡社、二〇一九）などがある。

11 B n F 手稿部門のコレクションの形成と概要については *Manuscripts, xylographes, estampages/les collections orientales du département des Manuscrits/GUIDE*, sous la direction d'Annie Berthier.

Bibliothèque nationale de France.2000 に詳しい。

12 『川端康成全集』補卷第二卷、新潮社、一九八四年

13 『ドナルド・キーン自伝 増補新版』中央公論新社、二〇一九年

14 アメリカの大手出版社のアーカイブ、Alfred A. Knopf Inc. Records や Grove Press Records が近年注目されている。日本文学と英訳としての翻訳との関係性をめぐる研究は、それらの調査により大幅に更新されつつある。

【付記】 本稿は、第五回近代作家旧蔵書研究会（二〇二三年六月三〇日）における口頭発表「西ヨーロッパにおける日本資料の所蔵と利用をめぐる」を増補したものである。本研究はJSPS科研費JP22H00641の助成を受けている。なお川端康成書簡の紹介にあたっては、公益財団法人川端康成記念会の許諾を得た。

※本稿で書簡を紹介したオウエハント氏の著作権者への連絡が取れていません。ご連絡を頂ければ幸いです。また、調査にあたり一方ならずお世話になった馬場郁氏（コレージュ・ド・フランス）、Christian Dunkel氏、Ursula Flache氏（ベルリン国立図書館）、Laurent Hercher氏（フランス国立図書館）、神谷信武氏（チューリッヒ大学）、嵩井里恵子氏（パリシテ大学）、古賀敦子氏（BULAC）、Nadia M. Kreeft-Mishkovskiy氏（ライデン大学）、ノエル咲氏（ギメ東洋美術館）の各氏（アルファベット順）に、記して感謝申し上げます。